

# 決算説明資料 -2022年3月期-

---

証券コード：3666  
株式会社テクノスジャパン

2022年5月17日

LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE

～ つながる未来を切り拓く ～

1. 会社概要
2. 決算概要（2022年3月期）
3. 業績見通（2023年3月期）
4. 中期経営計画の進捗
5. 株主還元

# 1. 会社概要

---

1	会社概要
2	決算概要（2022年3月期）
3	業績見通（2023年3月期）
4	中期経営計画の進捗
5	株主還元

# テクノスグループの沿革とMVV

## ESG経営デジタル改革

## ERP×CRM×CBP(※)

(※)企業間協調プラットフォーム  
(Connected Business Platform)

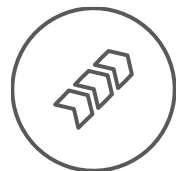


## 創業期からのビジネスコア ERPビジネス

## 自社ブランドで新市場開拓 CBPビジネス

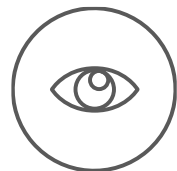


M&Aにより強化した  
CRMビジネス



### MISSION

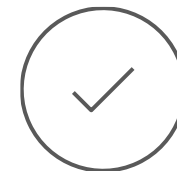
企業・人・データをつなぎ  
社会の発展に貢献する



### VISION

LEAD THE CONNECTED  
SOCIETY TO THE FUTURE

～ つながる未来を切り拓く ～



### VALUES

- 顧客志向・グローバル志向
- 個性融合のチームワーク
- 創造、変革、改善

# テクノスグループのご紹介

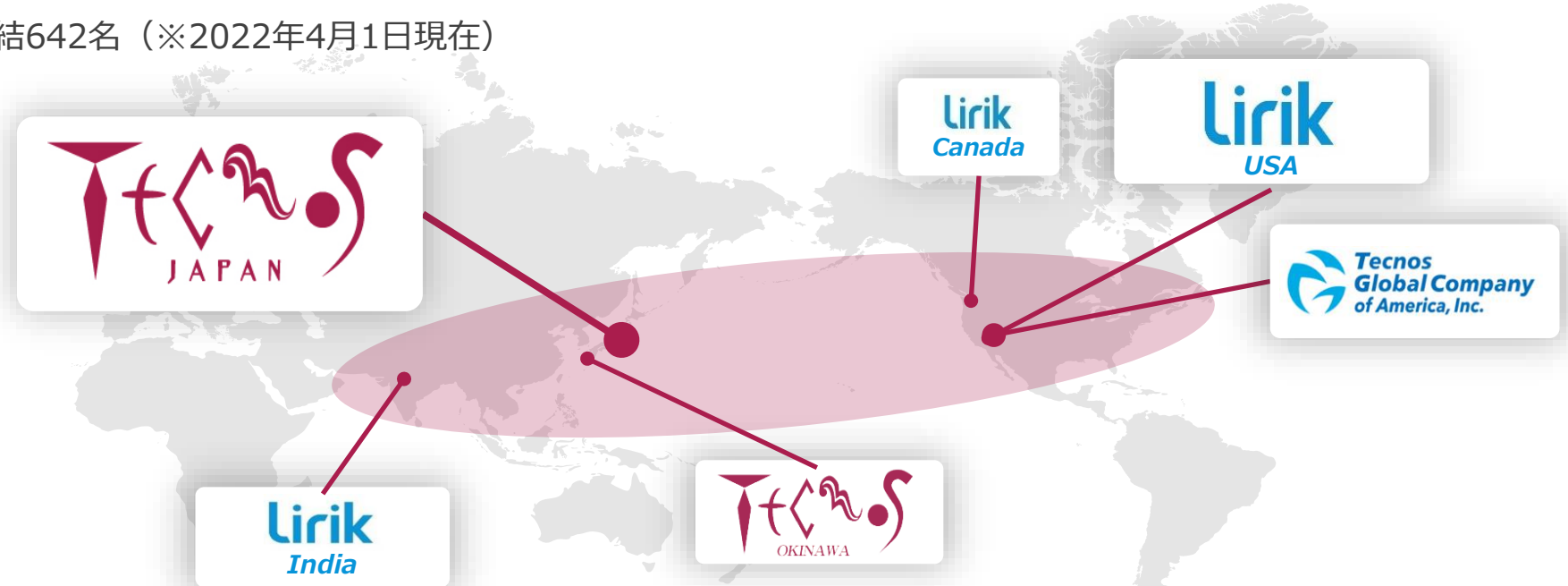
会社名	株式会社テクノスジャパン - 1994年設立 プライム市場：証券コード3666 代表取締役社長 吉岡 隆	【日本 東京都、大阪府、愛知県、福岡県】
連結子会社	沖縄テクノス株式会社 Tecnos Global Company of America, Inc. Lirik, Inc. Lirik Software Services Canada Ltd. Lirik Infotech Private Limited.	【日本 沖縄県】 【米国 カリフォルニア州】 【米国 カリフォルニア州】 【カナダ ブリティッシュコロンビア州】 【インド ハリヤナ州】
事業	<u>企業向け経営・業務システムにおけるDX推進事業</u> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 企業向けDX（デジタルトランスフォーメーション）のコンサルティング</li><li>・ 基幹システム（ERP）・顧客管理システム（CRM）・企業間協調プラットフォーム（CBP）を組み合わせたビジネスコンサルティング</li><li>・ システムグランドデザイン、要件定義、設計、開発、保守に至る一連のシステムサービス</li></ul>	
従業員数	単体393名 連結642名（※2022年4月1日現在）	

**企業向け経営・業務システム  
におけるDX推進事業**  
(デジタルトランスフォーメーション)

ERP×CRM×CBP

新技術発掘

ニアショア・オフショア  
(開発センター)



# 企業理念 (MVV) / 持続的な企業価値向上と社会への貢献

MISSION (ミッション)

企業・人・データをつなぎ社会の発展に貢献する

VISION (ビジョン)

LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE  
～つながる社会の未来を切り拓く～

VALUE (バリュー)

顧客志向・グローバル志向 / 個性融合のチームワーク / 創造、変革、改善

「企業向け経営・業務システムにおけるDX推進事業」  
持続的な企業価値向上 / 持続可能な社会への貢献

## 社会の要請に対応した経営の高度化

- ESG経営
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 産官学、地域社会との協創の推進

## 事業活動を通じた社会課題の解決

- お客さまへのサービスを通して、「企業経営・業務の高度化」と「業界バリューチェーンのDX」を推進し、社会課題の解決に貢献
- 「ERP×CRM×CBP」を軸にクラウドサービスでつながる社会を目指す



## 多様なプロフェッショナルの活躍



イノベーションと協創で  
社会を豊かに

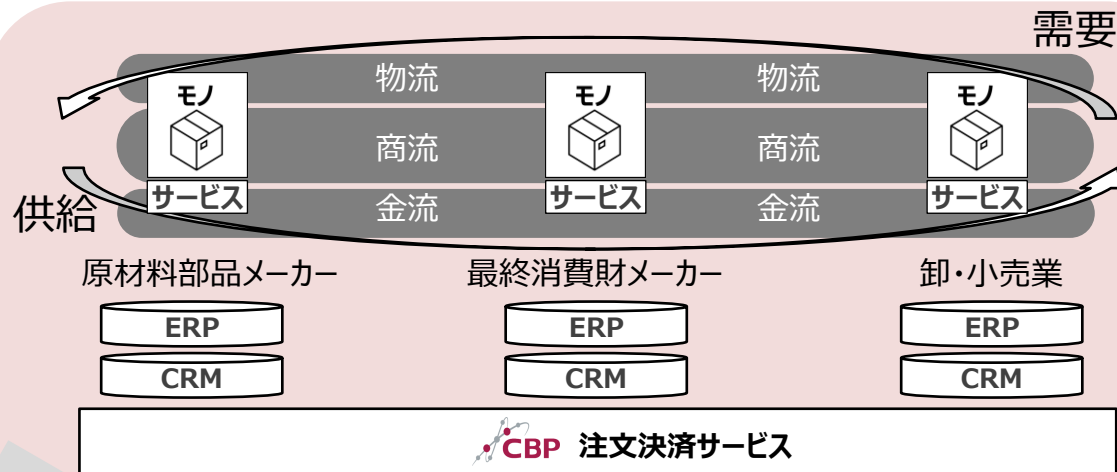
デジタルで  
循環型社会に貢献



# 「ERP×CRM×CBP」によるデジタルトランスフォーメーション

## 顧客起点

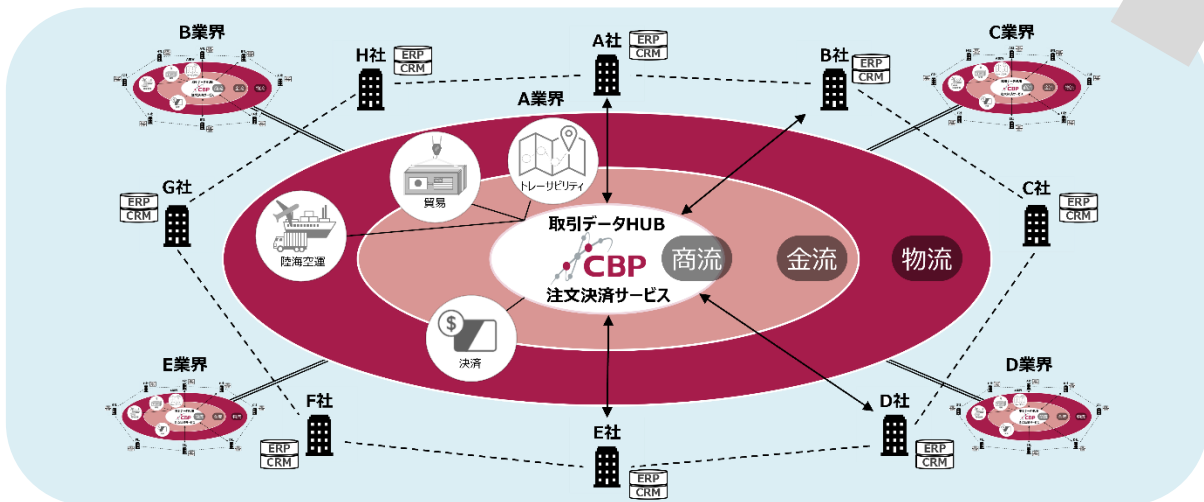
「企業経営・業務の高度化」と  
「業界バリューチェーン」のDX  
「商流・物流・金流」のデジタル連動



# 「ERP×CRM×CBP」によるデジタルトランスフォーメーション

## ソリューション起点

クラウドサービスで  
つながる社会を目指す  
「クラウド」to「クラウド」のデジタル連動



## LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE

～つながる社会の未来を切り拓く～

「企業経営・業務の高度化」と  
「業界バリューチェーン」のDX

「ERP×CRM×CBP」  
によるデジタルトランスフォーメーション

クラウドサービスで  
つながる社会を目指す

経営指標

ROE

キャッシュフロー

事業領域

企業向け経営・業務システムにおけるDX推進

事業リソース

DX人材

クラウドサービス

グローバル展開

ビジネス協創

ソリューション

ERP  
(統合基幹システム)

CRM  
(顧客管理システム)

CBP  
(企業間協調プラットフォーム)



# 経営指標：ROE/キャッシュフロー

当社は、ROE経営を実現し、収益性・資本効率・キャッシュフローの向上による持続的な企業価値の向上を目指す

経営指標		方針
ROE	当期純利益率	安定した収益性の実現
	総資産回転率	企業成長に見合った適切な資産効率性の追求
	財務レバレッジ	安全性と資本コストを意識した最適な資本効率の実現
キャッシュフロー		CCC（キャッシュコンバージョンサイクル）の適正化

## 2. 決算概要（2022年3月期）

---

1	会社概要
2	決算概要（2022年3月期）
3	業績見通（2023年3月期）
4	中期経営計画の進捗
5	株主還元

## 1. 売上高は前年度対比増収（**5期連続増収**）

- ERP・CRMへのシステム投資は堅調・好調

売上高	9,046百万（前年比 <b>10.4%</b> 増）
-----	-----------------------------

## 2. 営業利益・経常利益は前年度対比**大幅増益**

- 第3四半期で特別損失を計上したことが影響し、当期純利益は前年度対比で若干の減収、ROEについてもポイント減

営業利益	1,144百万円（前年比 <b>23.8%</b> 増）
経常利益	1,191百万円（前年比 <b>24.2%</b> 増）
親会社株主に帰属する当期純利益	650百万円（前年比 <b>1.6%</b> 減）
ROE	12.7%（前年比 <b>1.5ポイント</b> 減）

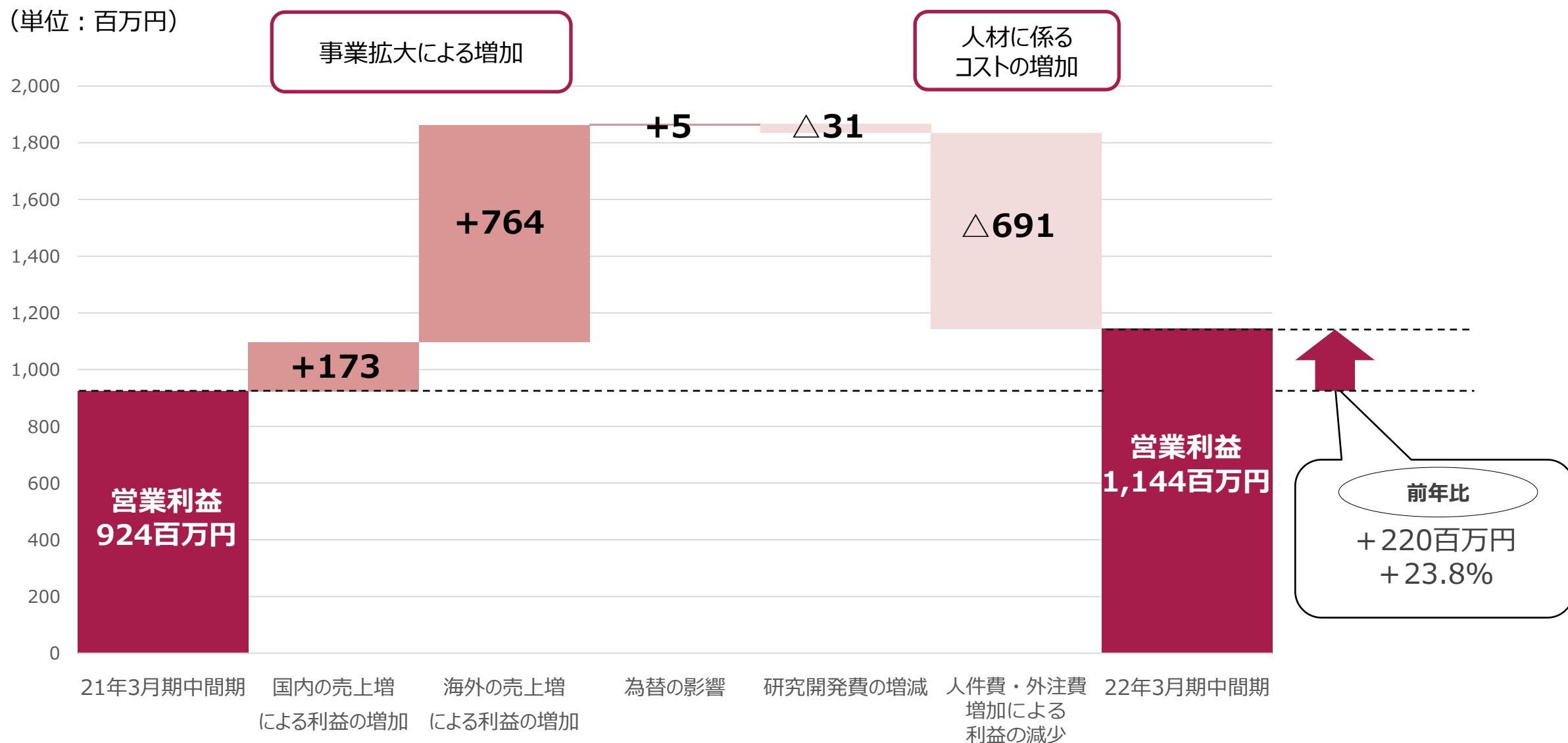
# 2022年3月期 経営成績（連結）

連結（単位：百万円）

	2021年3月期	2022年3月期	前年度比	
			増減額	増減率
売上高	8,197	<b>9,046</b>	+ 849	+ 10.4%
売上総利益	2,433	<b>2,841</b>	+ 408	+ 16.8%
（売上総利益率）	29.7%	31.4%	-	-
営業利益	924	<b>1,144</b>	+ 220	+ 23.8%
（営業利益率）	11.3%	12.6%	-	-
経常利益	958	<b>1,191</b>	+ 233	+ 24.3%
（経常利益率）	11.7%	13.2%	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	661	<b>650</b>	△ 11	△ 1.7%
1株当たり 当期純利益（円）	33.52	<b>32.98</b>	△ 0.54	△ 1.6%
自己資本利益率 ROE（%）	14.2	<b>12.7</b>	△ 1.5	△ 10.6%
配当額（円）	12	<b>14</b>	+ 2	-
EBITDA	1,043	<b>1,201</b>	+ 158	+ 15.1%

# 2022年3月期連結営業利益増減要因

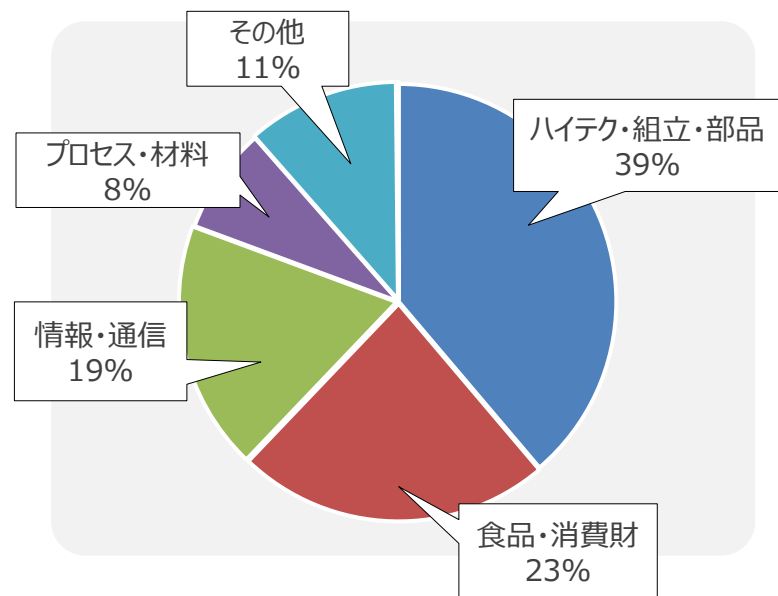
(単位：百万円)



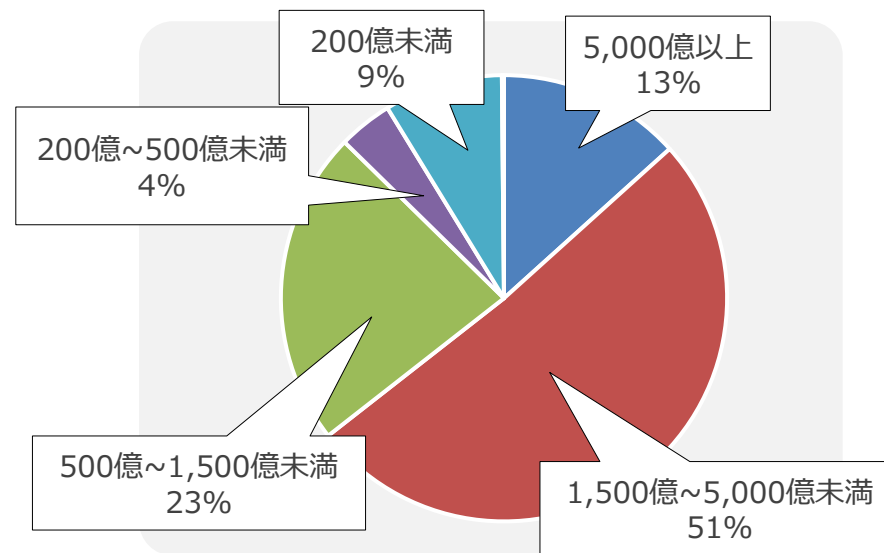
# 2022年3月期 業種別売上状況

## 大手製造業のお客さまを中心にビジネスを展開

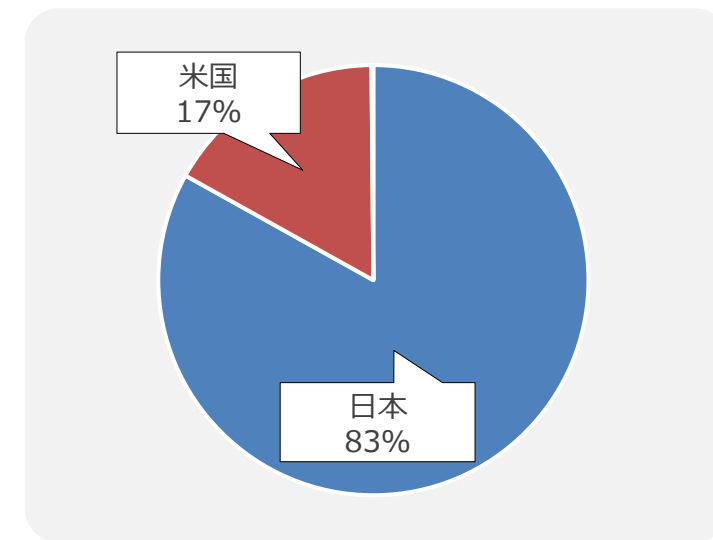
### 業種別売上高構成



### サービス先規模別売上高構成



### サービス先地域別売上高構成



# 2022年3月期 貸借対照表 (連結)

連結 (単位: 百万円)

	2021年3月期		2022年3月期			主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	
流動資産	4,171	63.7%	<b>4,807</b>	70.7%	+636	現金及び預金 + 461 売掛金 + 187 仕掛品 △14
固定資産	2,379	36.3%	<b>1,995</b>	29.3%	△383	無形固定資産 △182 投資有価証券 △230
資産合計	6,550	100.0%	<b>6,803</b>	100.0%	+252	
流動負債	1,224	18.7%	<b>1,230</b>	18.1%	+5	買掛金 +84 未払法人税等 △156 未払消費税等 +42
固定負債	351	5.4%	<b>264</b>	3.9%	△87	繰延税金負債 △80
負債合計	1,575	24.1%	<b>1,494</b>	22.0%	△81	
純資産合計	4,974	75.9%	<b>5,308</b>	78.0%	+333	利益剰余金 +413 為替換算調整勘定+61 その他有価証券評価差額金 △159
負債・純資産合計	6,550	100.0%	<b>6,803</b>	100.0%	+252	
自己資本比率	75.6%	—	<b>77.5%</b>	—		

# 2022年3月期 キャッシュ・フロー（連結）

連結（単位：百万円）

	2021年3月期	2022年3月期	増減額	コメント
営業CF	506	<b>704</b>	+ 198	税金等調整前当期純利益 +86 売上債権の増減額+39、仕入債務の増減額 +155 その他負債の増減額+300 法人税等の支払額 △426
投資CF	134	△ <b>38</b>	△ 173	有価証券の償還による収入 △100 定期預金の払い戻しによる収入 △73
FCF（フリー・キャッシュフロー）	641	<b>666</b>	+ 25	-
財務CF	△ 287	△ <b>236</b>	+ 51	長期借入れによる収入 △19 長期借入金の返済による支出 +70
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	<b>32</b>	+ 39	-
現金及び現金同等物の期首残高	2,066	<b>2,412</b>	+ 346	-
現金及び現金同等物の期末残高	2,412	<b>2,873</b>	+ 461	-



# 3.業績見通（2023年3月期）

---

1	会社概要
2	決算概要（2022年3月期）
3	業績見通（2023年3月期）
4	中期経営計画の進捗
5	株主還元

# 2023年3月期 業績見通（連結）

2023年3月期は引き続き成長を見込む（売上高は100億円台に）

連結（単位：百万円）

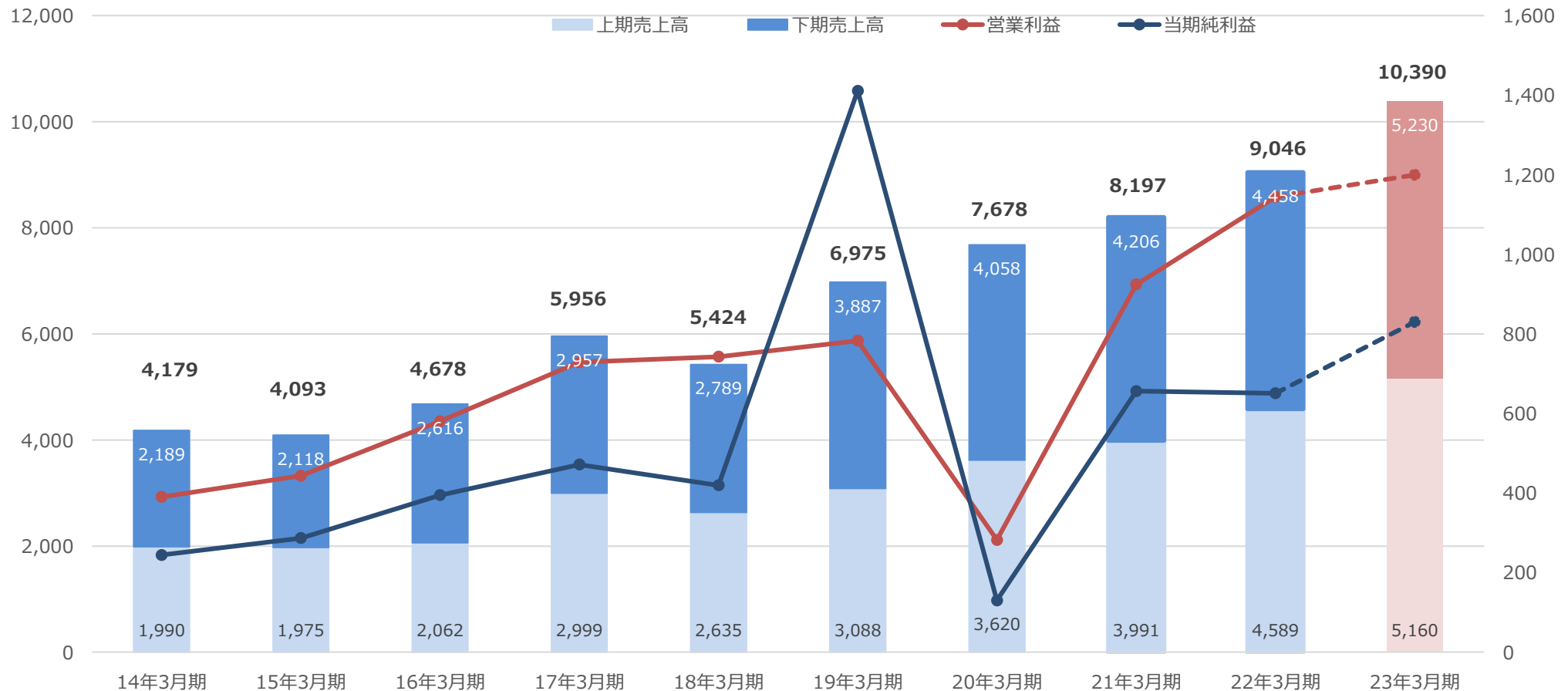
	2022年3月期	2023年3月期	前年度比	
			増減額	増減率
売上高	9,046	<b>10,390</b>	+ 1,344	+ 14.8%
営業利益	1,144	<b>1,200</b>	+ 56	+ 4.8%
（営業利益率）	12.6%	11.5%	-	-
経常利益	1,191	<b>1,240</b>	+ 49	+ 4.1%
（経常利益率）	13.2%	11.9%	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	650	<b>830</b>	+ 180	+ 27.7%
1株当たり 当期純利益（円）	32.98	<b>42.06</b>	+ 9.08	+ 27.5%
自己資本利益率 ROE（%）	12.7	<b>15.0</b>	-	-
配当額（円）	14	<b>14.1</b>	+0.1	-
EBITDA	1,201	<b>1,256</b>	+ 55	+ 4.6%

# 売上・営業利益・当期純利益の推移（連結）

## 売上、営業利益は持続的に成長

(単位：百万円)

(単位：百万円)



## 4. 中期経営計画の進捗

---

1	会社概要
2	決算概要（2022年3月期）
3	業績見通（2023年3月期）
4	中期経営計画の進捗
5	株主還元

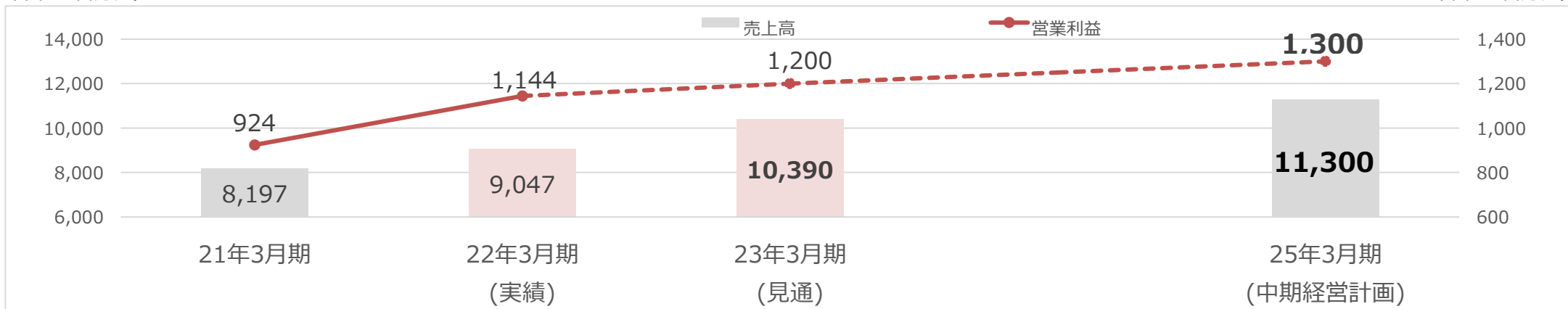
# 2022年3月期 中期経営計画目標に対する進捗／持続的成長

## 中期経営計画の目標に対して順調に進捗

中期経営計画：DX人材・CBP等へ積極投資しながら、ERP・CRM・CBPのトータルソリューションで、2025年3月期に売上113億円、営業利益13億円を目指す

				中期経営計画			
	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前年度対比 増減率	2023年3月期 見通	2021年3月期～2023年3月期 CAGR (年平均成長率)	2025年3月期 目標値	2021年3月期～2025年3月期 CAGR (年平均成長率)
売上高	81億9千万円	<b>90億4千万円</b>	<b>10.4%</b>	<b>103億9千万円</b>	<b>12.6%</b>	113億円	8.4%
営業利益	9億2千万円	<b>11億4千万円</b>	<b>23.8%</b>	<b>12億円</b>	<b>14.0%</b>	13億円	8.9%
営業利益率	11.2%	<b>12.6%</b>	<b>+1.4pt</b>	<b>11.5%</b>	<b>+0.3Pt</b>	11.5%	+0.3pt
ROE	14.2%	<b>12.7%</b>	<b>-1.5pt</b>	<b>15.0%</b>	<b>+0.8Pt</b>	14%以上	—

(単位：百万円)



(単位：百万円)

# 成果1 : SAP AWARD OF EXCELLENCE 2022

## DXコンサルティングの外部評価

- SAPジャパン株式会社が主催する『SAP AWARD OF EXCELLENCE 2022』において、テクノスジャパンの「ヤマサ醤油株式会社SAP S/4HANA新規導入プロジェクト」が優秀賞プロジェクト・アワードを受賞
- テクノス独自の標準導入手法「TEIM」を活用することで品質・網羅性を高めながら、プロジェクト状況をお客様に分かる形で見える化し、常にご納得いただきながら導入を推進



『SAP AWARD OF EXCELLENCE 2022』  
「Project Award」入賞トロフィー

PRESS

### テクノスジャパンがSAP AWARD OF EXCELLENCE 2022「ヤマサ醤油株式会社SAP S/4HANA新規導入プロジェクト」優秀賞「プロジェクト・アワード」を受賞

2022.03.23

DXでつながる社会の未来を切り拓く株式会社テクノスジャパン（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：吉岡 隆、以下「テクノスジャパン」、証券コード3666）は、SAPジャパン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：鈴木 洋史）が主催する『SAP AWARD OF EXCELLENCE 2022』において、「ヤマサ醤油株式会社SAP S/4HANA新規導入プロジェクト」が優秀賞プロジェクト・アワードを受賞したことをお知らせいたします。

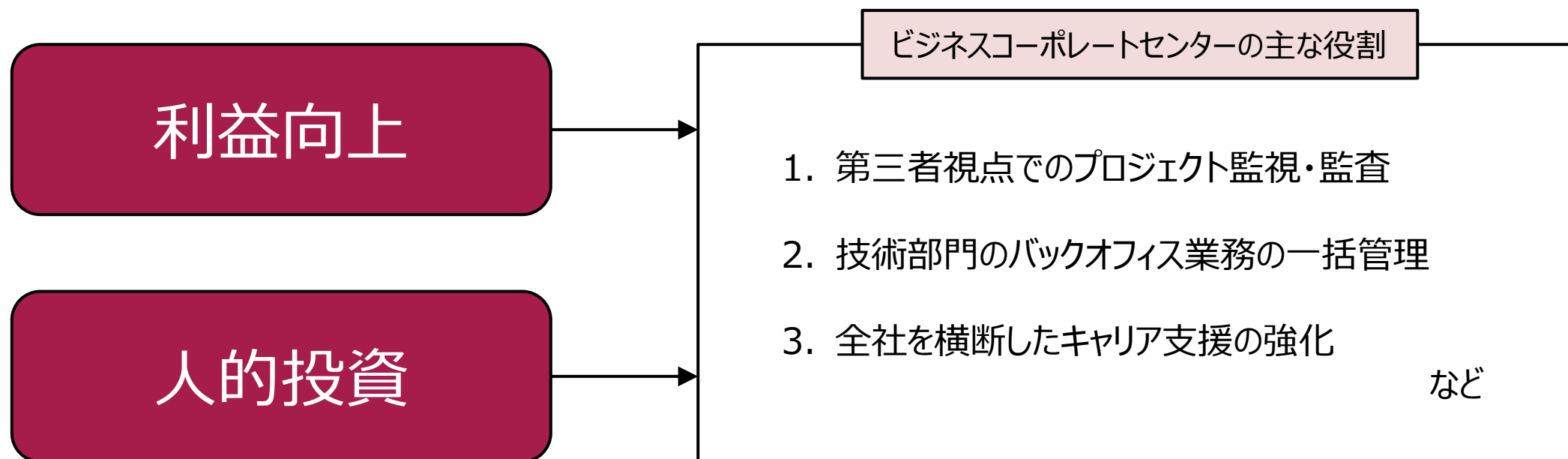
#### ■ SAP AWARD OF EXCELLENCE 2022とは

1998年に創設された『SAP AWARD OF EXCELLENCE』は、SAPビジネスへの貢献度、ならびに顧客満足度などにおいて、極めて高く評価されたパートナー企業に授与される賞で、今回で第25回目を迎えます。SAP S/4HANAやクラウドなどの主力SAPソリューション分野での取り組みや成果、ビジネスの実績、優れた導入プロジェクト、導入企業からの高い価値の提供、といった様々な観点から評価

# 成果 2 : ビジネスコーポレートセンターの設置

## 人財への投資と利益向上の取り組み

- 第三者視点でのプロジェクト監視・監査を強化し、不採算プロジェクトの発生を抑止
- バックオフィス業務の一括管理で各プロジェクトの収益性を向上
- 研修制度の適正化により全社横断でキャリア支援を図り、エンゲージメント、生産性を向上



# 成果3：OKRによる組織運営への取り組みを開始

## 自律的なチャレンジを促すマネジメントの浸透

MISSION (ミッション)

企業・人・データをつなぎ社会の発展に貢献する

VISION (ビジョン)

LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE  
～つながる社会の未来を切り拓く～

VALUE (バリュー)

顧客志向・グローバル志向／個性融合のチームワーク／創造、変革、改善



「顧客志向・グローバル志向」／「個性融合のチームワーク」／「創造、変革、改善」の体現  
➤ **自律的に挑戦するカルチャー醸成の加速**

新中期経営計画  
(2023年3月期～2025年3月期)  
を策定

「ERP×CRM×CBP」による  
DX推進事業を積極拡大



ミッション・ビジョン・経営目標の達成に向けた一人ひとりの  
主体的な目標設定と行動を促す組織運営を実現

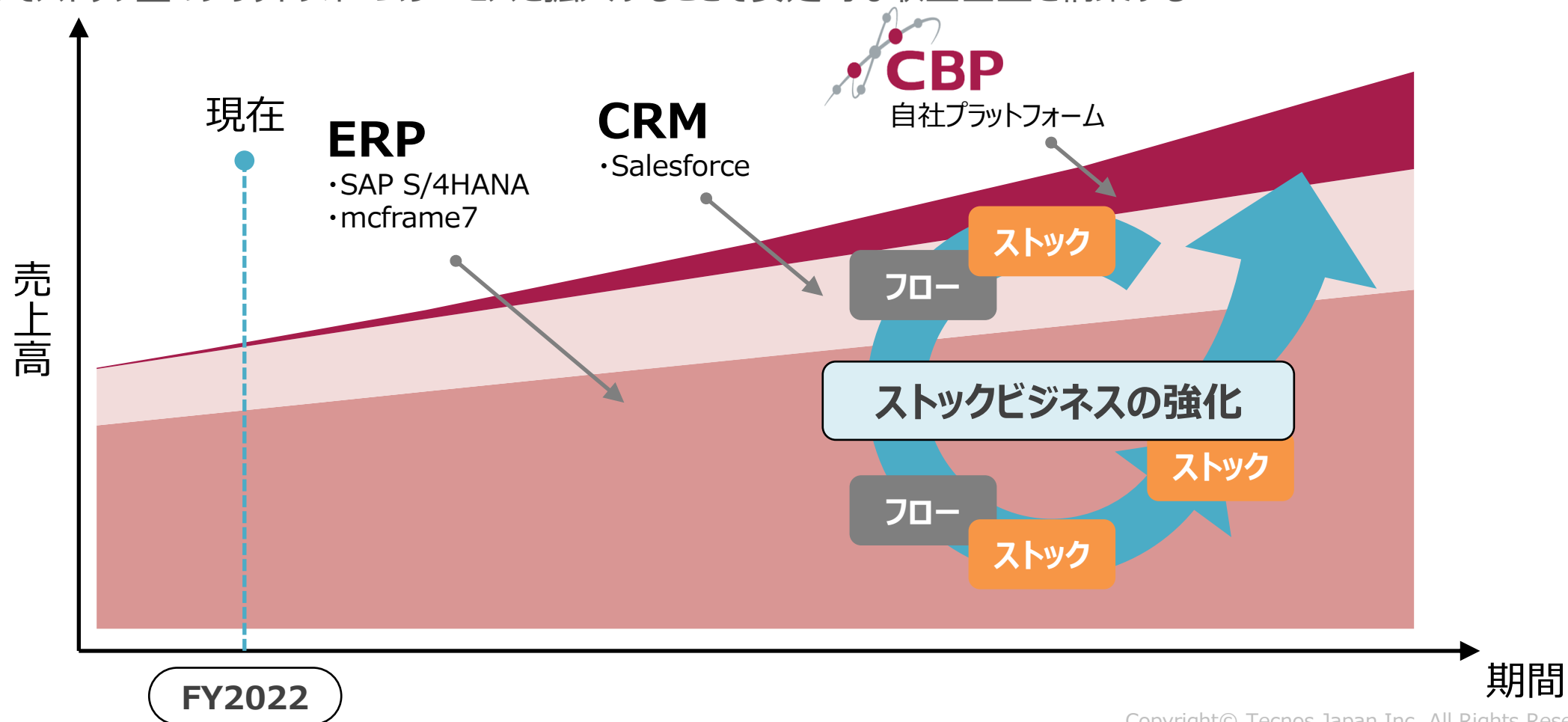
➤ **「OKR」・「1on1」・「360度フィードバック」による組織運営と全社浸透**

※OKRとは Objectives and Key Resultsの略称。グローバルの先進的企業が採用する組織マネジメント手法



## 売上高構成の変化イメージ

- 高成長のERP・CRM市場における導入コンサルティングでフロー型収益を継続的に獲得する
- 並行してストック型のプラットフォームサービスを拡大することで安定的な収益基盤を構築する



# コーポレートガバナンス・持続可能な社会に向けた取り組み

## コーポレートガバナンス

- ✓ 指名・報酬委員会(任意)の設置
- ✓ 監査等委員会設置会社への移行
- ✓ 1/3以上の独立社外取締役
- ✓ 女性取締役の登用
- ✓ 取締役スキルマトリクス開示
- ✓ 中期経営計画／統合報告書の英文開示 (予定)
- ✓ 議決権電子行使プラットフォームの利用開始 (予定)
- ✓ 中期経営計画／統合報告書の開示
- ✓ 株主総会における電子議決権行使開始

**取締役会の機能発揮**

**株主・投資家に向けた情報の充実**

## コーポレートガバナンス体制

## リスクマネジメント体制

## 多様なプロフェッショナルの活躍

- ✓ 女性取締役の登用
- ✓ 外国人執行役員の登用
- ✓ 執行役員の外部登用
- ✓ BCセンター(※)による全社横断キャリア支援
- ✓ OKR、1on1、360度フィードバックによる組織運営



(※) BCセンター  
ビジネスコーポレートセンター

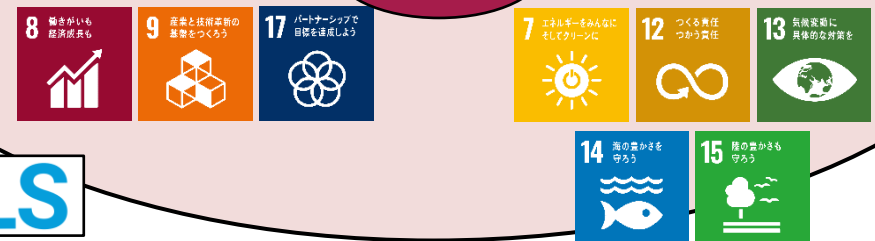
## イノベーションと協創で社会を豊かに

- ✓ 九州工業大学との産学連携
- ✓ DAL社との業務提携

## デジタルで循環型社会に貢献

- ✓ 顧客サービスによる企業向けDX推進

**DX**



# 5.株主還元

---

1	会社概要
2	決算概要（2022年3月期）
3	業績見通（2023年3月期）
4	中期経営計画の進捗
5	株主還元

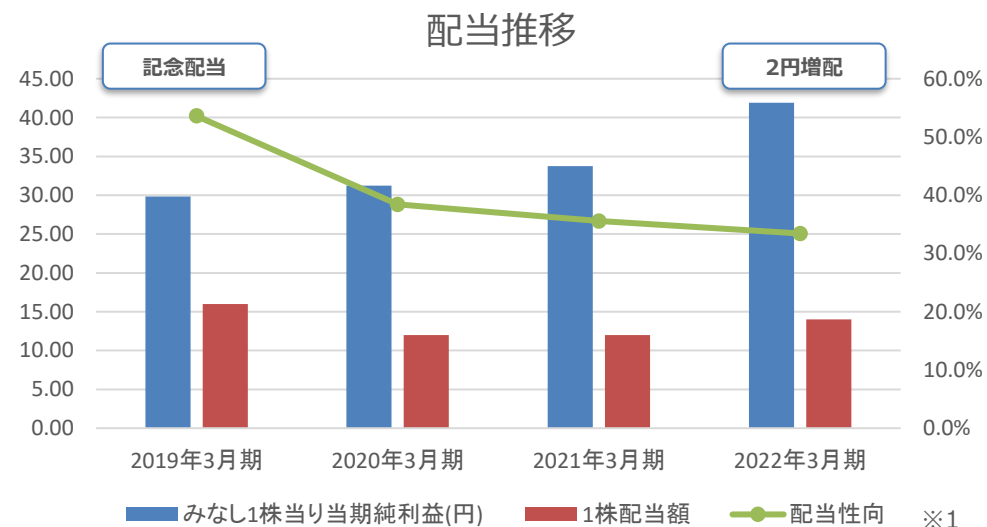
# 2022年3月期の株主還元

2022年3月期の配当は14円（2021年3月期比較2円増配）  
配当に加え、3億円の自己株式を取得

## 三方バランスのとれた利益還元施策



## 株主還元施策実績



※1 みなし配当原資に対する配当性向

2022年3月期の配当額については、連結経常利益を基準に実効税率を加味した「みなし配当原資」（みなし純利益）に対し 35%以上を目安に配当として還元していく方針としています。

【2022年3月期の配当】 14円（「みなし配当原資」に対する配当性向:35.0%）

当社配当方針に従い、2022年3月期は、前期から2円増配し、14円といたします。（配当予想の13円より1円増配）

【自己株式取得】 総額：3億円／上限株数：70万株

配当に加え、2022年5月から自己株式を取得します。

# 2023年3月期の株主還元

## 2023年3月期の配当は14.1円（0.1円増配）

### 三方バランスのとれた利益還元施策

#### 株主還元

- 長期的に安定した株主還元
- 適正な配当性向確立
- 自己株式取得

#### 成長投資

- CBPへの投資
- 成長を支える人財への投資

#### 財務基盤

- 健全な財務基盤を維持
- 適切な自己資本比率

#### ■ 配 当 金

連結株主資本配当率（DOE）を指標とした配当の実施

#### ■ 株 主 優 待

2023年3月期より導入予定

#### ■ 自己株式取得

内部留保、PER、キャッシュフローの状況等を鑑み機動的に実施

### 株主還元施策実績と予想



2023年3月期の配当額については、「株主資本」に対し、配当金・株主優待を合わせて5%～5.5%を目安に配当として還元していく方針としています。2023年3月期より導入予定の株主優待は、詳細決定後お知らせいたします。

【2023年3月期の配当予想】 14.1円

当社配当方針に従い、2023年3月期は、前期から0.1円増配し、14.1円といたします。



LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE

～ つながる未来を切り拓く ～